

はばプラⅡ 生活科「であう」過程の基本的な流れ

学びを深める指導・支援の重要ポイント

【学習対象に関連する資料の準備】

○資料等については、低学年の発達の特徴を踏まえた写真や絵などを準備する。

【話題の取り上げ方】

○児童の日常的な会話や日記などを基に、具体的な言葉を問い掛ける。

<例>

◆「自分の住んでいる町にどんなお店があるのかな。」など。

【「めあて」の設定】

○基本的に単元のスタートにおいては、「活動・テーマ」の要素を含んだめあての設定が多くなる。

<例>

◆「〇〇をさがそう」
◆「〇〇をみつけよう」など。

【意欲を高める言葉掛け】

○児童の発見や気づきを共感的に受け止めたり、周囲の児童にも伝わるような言葉掛けをする。(リアクション、声の大きさ)

<例>

◆「すごいものを見つけたね。」
◆「〇〇ちゃんが△△に気付いたよ。」など。

【交流する場の設定】

○児童の実態や発達の特徴を踏まえ、学習対象に関連するものなどを用いながら、言葉や絵などで伝え合わせる。

【振り返りの工夫】

○次時への思いや願いをもてるような振り返りの視点を示す。

<例>

◆これからしてみたいこと
◆みんなで楽しみたいこと など。

○児童の発達の特徴を踏まえ、言葉だけでなく絵で表現させたり、意欲が増すような見出しにしたりするなどの振り返りカード等を準備する。

基本的な流れ

1 本時のめあてをつかむ。

- 児童のこれまでの生活経験や学び、日頃の児童の遊びや生活の様子を基に、学習対象に関連するものや写真などの資料を提示する。
- 学習対象について知っていることや体験していることを話題に取り上げる。
- 本時の学習のめあてを、児童の思いや願いを踏まえて設定する。

【めあて】

2 学習対象と関わる。

- 学習対象への興味や関心が高まるような出会わせ方を工夫し、学習対象とじっくり関わる機会を設定する。
- 学習対象への興味・関心を確認したり、活動や体験への意欲を高めたりする言葉を掛ける。

3 学習対象について見つけたことや気付いたことを伝え合い、課題をつかむ。

- 発見や考え、感想などを交流する場を設定する。
- 一人一人の思いや願いを把握し、気付いたことなどを全体で共有できるように、児童の気づきを板書し、可視化する。
- 児童の気づきをキーワードに、単元の課題を設定する。

【単元の課題】

(単元を通して実現したい思いや願い)

4 本時の学習の振り返りをする。

- 思いや願いの実現への意欲につなげられるような言葉を掛ける。
- 活動を基に、気付いたことや感想などを振り返りカードに書かせる。
- 気付いたことや感想などを発表するように促す。

単位時間の振り返り

個別最適な学びに関わる学習活動

協働的な学びに関わる学習活動

1人1台端末の活用

<児童が学習対象に興味・関心をもてるためのICT活用>
●児童のこれまでの生活経験や学び、日頃の児童の遊びや生活の様子を基に、学習対象に関連するものや写真などの資料を提示する。
<例>
●幼稚園等で親しんできた遊びや自然物を使った製作物
●児童が住んでいる地域の公園や店 など

【表現】

○学習対象との関わる中で見つけたことや気付いたことを、写真や動画で記録したり、文章作成ソフト等で入力したりし、電子ファイルに保存する。

【学習データの蓄積】

○教員用端末に送信する。
→学習過程で提示することで、自分の気づきを自覚することができることも学習対象への興味・関心を高めることができる。

【個々の気づきを全体で共有】

○大型提示装置や端末を活用し、児童が学習対象について見つけたことや考えたこと、今後やってみたいことを出し合い、共有する。
○共通点や相違点を分類・整理し、キーワードを考える。
→児童の気づきのキーワードを基に、単元の課題の設定につなげる。

【表現】

○文章作成ソフト等で、個々の振り返りを入力、電子ファイルへ保存する。

【学習データの蓄積】

○教員用端末等に個々の振り返りを送信する。
→次時の学習への見通しを明確にもつことができる。
→自己の学びの確認ができる。

<ICT活用の視点>

児童が、課題の解決に向け、身近な生活に関わる見方・考え方を生かしたり、教師が児童の学びに即した効果的な支援ができたりするなど、深い学びが展開されるようにすることが大切です。

教師の指導・支援

大型提示装置・教員用端末の活用

○本時の学習対象に関連する資料を大型提示装置等で提示する。

<留意事項>

※資料等については、低学年の発達の特徴を踏まえて準備する。

○教員用端末で学習状況を把握する。

○教員用端末に送信された児童が考えた気づきのキーワードを大型提示装置等に表示する。

○児童の気づきのキーワードを基に見出された単元の課題を大型提示装置等に表示する。

○教員用端末に送信された個々の振り返りを大型提示装置等で紹介し、共有する。

はばプラⅡ 生活科 「はたらきかける」過程の基本的な流れ

学びを深める指導・支援の重要ポイント

【めあての設定】

○「はたらきかける」過程においては、児童の具体的な活動や体験、気づきを交流する活動についての設定が多くなる。

- <例>
- ◆「〇〇をたんけんしよう」
 - ◆「〇〇をつくろう」
 - ◆「〇〇であそぼう」
 - ◆「〇〇をつたえよう」など。

【多様な学習活動の設定】

○気づきの質を高められるように以下のことができる活動を設定する。

- <例>
- ◆見付ける、比べる、たとえる、試す、見通す、工夫するなど。

【児童が工夫したくなるような材料等の準備】

○児童の発達特性を踏まえ、可塑性のある材料や様々な形や色の材料、いろいろな種類の道具を準備する。

- <例>
- ◆粘土、ゴム、空き箱、画用紙、ひも、カッター、ガムテープ、接着材など。

【言葉掛けの援助】

<例>

- ◆「なんで？どうしてそう思ったの？」
- ◆「どうしたらもっと〇〇になるかな。」
- ◆「自分の考えと比べてどうかな。」
- ◆「どうして〇〇になったのかな。」
- ◆「〇と△は関係があるかな。」
- ◆「何に似ているかな？」
- ◆「同じ(似ている、違う)ところはどこかな。」など。

【振り返りの工夫】

○次時への思いや願いをもてる振り返りの視点を示す。

- <例>
- ◆もっと楽しくなるために工夫すること
 - ◆もっと調べたいこと など。

○児童の発達特性を踏まえ、言葉だけでなく絵で表現するなどの振り返りカード等を準備する。

基本的な流れ

1 本時のめあてをつかむ。

- 前時までの学習を想起できるよう、前時に使った具体物や掲示物、板書をまとめたもの等を提示する。
- 振り返りカード等を基に、本時の活動に対する児童の思いや願いを確認させる。
- 学習のめあてを、児童の思いや願いを踏まえて設定する。

【めあて】

2 具体的な活動や体験をする。

【学習対象と関わる】

- 対象にじっくり関わったり、繰り返し関わったりする時間を十分確保する。
- 動きやすく安全な空間を設定する。
- 児童が工夫したくなるような材料や道具を準備する。
- 児童の内面を押し量り、一人一人の思いや願いが実現できるような適切な援助をする。

3 気付いたことや考えたこと表現し、伝え合う。

- 気付いたことや考えたことを、児童に絵や文章、動作等で表現させる。
- 気付いたことを発表し合わせるとともに、学級全体で気づきを共有する場を設定する。
- 児童が気づきを自覚したり、新たなことに気付いたり、気づきを関連付けたりすることができる言葉掛けの援助をする。

【再び学習対象と関わる】

4 本時の学習の振り返りをする。

- 本時の活動を通して気付いたことや感想などを振り返りカードに書かせる。
- 児童の気づきを板書し、可視化する。
- 思いや願いをもち、次時への意欲につなげられる言葉を掛ける。

単位時間の振り返り

個別最適な学びに関わる学習活動

協働的な学びに関わる学習活動

1人1台端末の活用

【学習データの再生】

- 電子ファイルにある前時までの学習内容・振り返りを確認する。
- 学習状況の把握や本時の学習の見通しをもてる。

【調査活動】

- インターネットやデジタル教材を用いて情報を収集する。
- 端末の写真機能や録画機能や動画等使い、観察における写真を記録する。
- 細かな観察情報から新たな気づきへつなげたり、必要な情報を主体的に収集・判断する力を身に付けられる。

<例>

- 町探検で地域のお店や公園等を訪問したり利用したり、そこで働く人々や利用する人々にインタビューする際に、デジタルカメラやタブレット型学習者用コンピュータを活用して興味や関心を抱いたことを撮影する。

【表現】

- タブレット等を用いて撮影した写真等に、気付いたことや考えたことをタブレット上に文字で書き込む。
- 教員用端末等に送信する。
- 児童が気づきを自覚することができる。
- 児童の気付いたことが伝わりやすくなる。

【発表・共有】

- 大型提示装置等で、児童が気付いたことや考えたことを発表し合い、共有する。
- 児童一人一人の気づきや考えを共有し、互いの共通点や相違点に気づき、考えを広げたり、意欲を高めたりすることができる。

【表現】

- 文章作成ソフト等で、個々の振り返りを入力、電子ファイルへ保存する。

【学習データの蓄積】

- 教員用端末等に個々の振り返りを送信する。
- 次時の学習への見通しを明確にもつことができる。
- 自己の学びの確認ができる。

教師の指導・支援

大型提示装置・教員用端末の活用

- 大型提示装置等で、前時の学習を想起できる具体物等や振り返りを提示する。

<例>

- 学校にある施設の写真
- 自分たちがお世話になっているお店や人の写真など

- 教員用端末で学習状況を把握する。

<例>

- 町のイメージを広げたり、新たな探検への意欲を高めたりすることができる。

- 教員用端末に送信された児童の気づきを大型提示装置等に表示する。

- 教員用端末に送信された個々の振り返りを大型提示装置等で紹介し、共有する。

はばプラⅡ 生活科「ふりかえる」過程の基本的な流れ

学びを深める指導・支援の重要ポイント

【めあての設定】

○「ふりかえる」過程においては、今までの学習内容をまとめたり、調べてきたことを紹介したりする言葉が多くなる。
 <例>
 ◆「〇〇についてパンフレットにまとめよう」
 ◆「〇〇について1年生にしようかいしよう」など。

【これまでの活動を想起する環境づくり】

○今までの活動を可視化して提示する。
 <例>
 ◆活動中の写真や動画
 ◆関わってくれた人の印象的な言葉や様子
 ◆蓄積してきた振り返りカード
 ◆活動の中で使ったものや作ったもの など。

【まとめ方の工夫】

○児童の思いに沿って、様々な形でまとめ、表現することができるよう表現方法を選択させる。
 <例>
 ◆絵本、新聞、巻物、劇 など。

【気づきを自覚させる言葉掛け】

○教師が児童の気づきを認め、自分の成長やよさなどについて気付かせる。
 <例>
 ◆「〇〇ができるようになったね。」
 ◆「友達に教えることができたね。」
 ◆「友達と力を合わせてできたね。」など。

基本的な流れ

1 本時のめあてをつかむ。

- これまでの学習における一人一人の思いや願いなど、振り返りカードなどから把握しておく。
- 前時までの学習を想起できるよう、これまでの活動で使ったものや作ったもの、活動中の写真などを掲示する。(全体で)
- 学習のめあては、児童の思いや願いを踏まえて設定する。

【めあて】

2 一人一人が今までの活動や気づきについて振り返る。

- 活動してきたことを想起できる環境をつくる。
- これまでに使ったものや作ったものを見られるように提示する。(個別に)
- 今までの振り返りカード等を見返すよう促す。
- 頑張ったことやできるようになったことに気付かせるような言葉掛けをする。

3 表現方法を工夫し、まとめる。

- 自分の気づきを自覚したり、考えを深めたり、新たな考えを生み出したりできる表現活動を設定する。
- 互いの気づきや考えを共有したり、関連付けたりできる機会を設定する。
- 充実した活動となるように時間を十分確保する。

4 単元全体の振り返りをする。

- 自分の成長やよさなどについての気づきをもたせ発表させる。
- 全体で互いの頑張りを確認させ、更なる成長への期待や意欲につなげる。

単元全体の振り返り

個別最適な学びに関する学習活動

1人1台端末の活用

【学習データの再生】
 ○電子ファイルにある前時までの学習内容・振り返りを確認する。
 →学習状況の把握や本時の学習の見通しをもてる。

【思考を深める学習】
 ○電子ファイルから、これまでに作った物等や活動の様子、振り返りの記録を呼び出し、繰り返し確認する。
 →自分の言葉やつぶやき、動きを客観的に捉えることができる。

【表現・制作】
 ○端末等を活用して、自分が蓄積した写真や動画をつなげたり、自分の思いや考えを文章で入力したりしてプレゼンを作成する。
 ○教員用端末に送信する。
 →自分の気づきを自覚したり、考えを深めたり、新たな考えを生み出したりすることができる。

<例>
 ・自分で作った動くおもちゃのよさや動き方などをまとめたもの など

【表現】
 ○文章作成ソフト等で、単元を通しての個々の振り返りを入力、電子ファイルへ保存する。

【学習データの蓄積】
 ○教員用端末等に個々の振り返りを送信する。
 →単元全体を通しての自分の成長やよさなどについての気づきを確認できるとともに、次の学習への意欲の向上が図れる。

協働的な学びに関する学習活動

【協働制作】
 ○端末等を活用して、自分たちが蓄積した写真や動画をつなげたり、自分たちの思いや考えを文章で入力したりしてプレゼンを作成する。
 ○教員用端末に送信する。
 →自分の気づきを自覚したりや考えを深めたり、新たな考えを生み出したりすることができる。

【発表・共有】
 ○大型提示装置等で、児童が作成したプレゼンを発表し合い、共有する。
 →児童の気づきや考えを共有し、互いの共通点や相違点に気づき、考えを広げたり、関連付けたりすることができる。

<留意事項>
 ※プレゼン作成については、単元によって、個人、またはグループで作成となる。

教師の指導・支援

大型提示装置・教師用端末の活用

○大型提示装置等で、これまでの活動で作ったものや活動中の写真や動画、前時の振り返りを提示する。

<例>
 ・園児等を招待して遊びを紹介し一緒に楽しむ活動の様子を動画で提示する。 など

○教員用端末で学習状況を把握する。

<例>
 ・町探検でお世話になった方へのビデオメッセージ など

○教員用端末に送信された児童が考えた気づきのキーワードを大型提示装置等に表示する。

○教員用端末に送信された個々の振り返りを大型提示装置等で紹介し、共有する。